

HITO NEWS

H I T O
M E D I C A L
C E N T E R
N E W S

2014.7

No.04

病院長ごあいさつ

婦人科受診のすすめ

シリーズ：4疾病をよく知ろう
第五回「糖尿病」

対談特集「働くステキ医師」

脳卒中センター 脳神経外科

TOPICS





社会医療法人石川記念会
HITO病院 病院長 石川 賀代

4月からの取り組みと
4疾病の取組強化について

4月には、一般病棟に比べて手厚い看護体制を取り、高度な治療や看護を必要とする患者様を受け入れるHCU（ハイケアユニット）を10床に増床し、順調に稼働しております。
また5月より、入院患者さま7人に対し、常時看護職員1名が勤務する、7対1看護体制をスタートさせました。医師・看護師をはじめ、職員を増員することにより、より安心で安全な医療を提供出来るようになりこれまで以上に手厚い看護をすることが可能となりました。

「7対1」看護体制 確立

入院患者さま7人に対し、
常時看護職員1名が勤務する体制

- 患者さまに、より手厚い看護を
- 看護師のワークライフバランスを

産婦人科全般において、経験豊富な小川晴幾先生が着任し、5月より婦人科外来を開設いたします。近年、女性特有の疾患や、若年層の婦人科がんが増加しており、予防の観点から、婦人科健診を含めて、早めの受診をお勧めしております。

その他の4疾病強化の取り組みも進んでおり、脳卒中疾患については、5月に脳卒中相談会を開催、当地域において当院にしかない脳卒中の専門医や、県内でも数少ない脳卒中リハビリテーション認定看護師をはじめ、専門スタッフが相談者の質問を承りました。
糖尿病の分野では、定期的な糖尿病教室の開催、当院の管理栄養士とレストランが協力して、「病気の予防ランチ」をレストランで一般の方向けに提供しております。
心臓疾患やがん疾患においては、他職種のチーム医療を通じて、治療方針をチーム全体で検討するシステムが確立されています。
チーム医療では、患者さまやご

家族の方もチームの一員です。高齢化社会を見据えた専門医療を核とする総合力で対応させていただきます。

地域に開かれた病院へ

これまで病院は、病気の時に来院していただき、医療を提供する場でした。しかしこれからは、地域の方が集う施設としても活用していただきたいと考えております。

- ①子ども達が、医療・介護を知り、きっかけになるイベント
- ②医療・介護のサロン、相談会や講演会
- ③他の医療機関や地域の方とともに医療知識を深める勉強会や相談会

その他、気軽に足を運んでいたようなイベントを計画中です。
地域の方が生まれ育ち、住み慣れた町で安心して暮らすことが出来るよう、地域に開かれた病院として活動してまいります。

**婦人科
受診のすすめ**

婦人科 医長 小川 晴幾
おがわ はるき

女性ならではの、
気持ちに配慮した診察を。

婦人科受診のすすめ

婦人科を受診することは多分皆様にとって、不安や羞恥心から、他科を受診する場合以上に悩まれていることと思います。
少量の出血が続いているがそのうち自然に止まるかもしれない様子を見ていたところ、数カ月後に進行した子宮がんが見つかった等といったことは少なからず経験して参りました。どのような場合に婦人科受診が必要かなどをお話しします。

婦人科で取り扱う病気

婦人科の病気は妊娠・出産を行う子宮など女性特有の臓器や女性ホルモンなどの変調から生まれます（図1）。図1にはライフサイクルにおける女性ホルモンの増減とその変調から起こる病気の概要が書かれています。生活習慣病や尿漏れ、骨粗鬆症、うつなどといった、一見すると内科、泌尿器科、整形外科、精神科などで扱うと考えられる病気も、実際にはホルモン療法や手術療法な

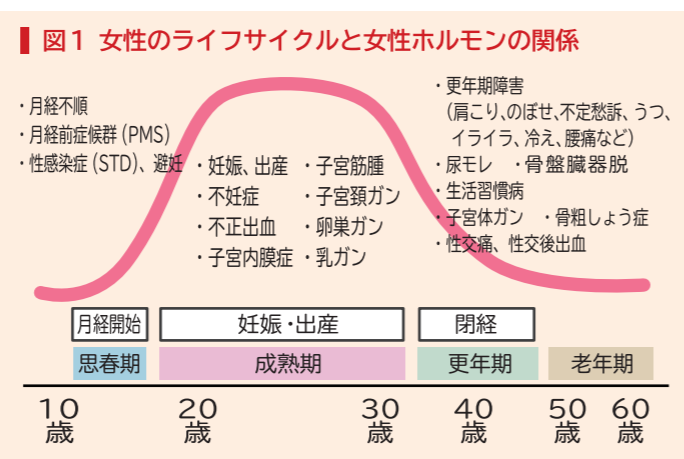
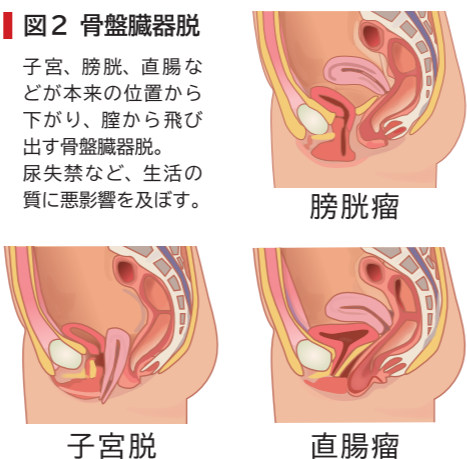


図2 骨盤臓器脱
子宮、膀胱、直腸などが本来の位置から下がり、膈から飛び出す骨盤臓器脱。尿失禁など、生活の質に悪影響を及ぼす。



勧めします。

私は、婦人科腫瘍を専門としておりますが、産科や骨盤臓器脱なども診療して参りましたので、広い範囲にわたって婦人科疾患を経験しております。気軽に私の外来を受診してみてください。婦人科では、子供から老人までのすべての女性のデリケートな内容を扱いますので、そのことに配慮しながら診察を行います。

婦人科外来

■診察日：月～金、第1・3土曜日
9:30～11:00
月・金の午後診療があります
15:00～17:00

■お問い合わせ・ご予約
サポートセンター
TEL0896-29-5320
FAX0896-58-5350



婦人科ホームページ
<http://hito-medical.jp/department/about/gynecology/>

4 疾病について
よく知ろう

- がん
- 脳卒中
- 急性心筋梗塞
- 糖尿病



内科 医長
おおぎ まき
扇喜 真紀

「糖尿病患者さま急増中！」

日本人の糖尿病患者さまは年々増加傾向にあります。2012年の国民健康・栄養調査では「糖尿病が強く疑われる人は95万人にも及び、この50年で35倍以上に増加しています。また、40歳以上の3人に1人が糖尿病または糖尿病予備軍である」と言われています。今や「国民病」と言えるかもしれません。

糖尿病初期は、自覚症状がないため、油断して治療を受けなかったり治療を中断する人も見られます。糖尿病と診断されたら症状がなくても積極的に治療に取り組む事が大切です。

「血糖コントロール目標があります。」

血糖コントロールで特に重要なのがHbA1c（ヘモグロビンエーワンシー）です。HbA1cとは、過去1〜2か月の血糖値の平均を示します。血糖値は、食事や運動に左右されやすいですが、HbA1cは長期的な血糖コントロールの状態を把握する指標とします。

血糖コントロール目標

目標	コントロール目標値		
	血糖正常化を目指す際の目標	合併症を予防するための目標	治療強化が困難な際の目標
HbA1c (%)	6.0 未満	7.0 未満	8.0 未満

治療目標は年齢、罹病期間、臓器障害、低血糖の危険性、サポート体制などを考慮して個別に設定します。
※成人に対する目標値であり、妊娠例等は除きます。

「なぜ、糖尿病になるのでしょうか？」

血糖値は膵(すい)臓から出るインスリンというホルモンにより調節されています。食事によって血糖値が高くなると、インスリンが分泌されて血糖値が下がります。インスリンの分泌が低下したり、働きが悪くなると血糖値が上昇し糖尿病を発症します。また、糖尿病は遺伝因子(両親や兄弟が糖尿病)と環境因子(肥満、過食、高脂肪食、運動不足、ストレス、喫煙など)が重なって発症します。

「糖尿病はなぜ怖い？」

糖尿病は自覚症状がなくても気づかないうちに進行します。血糖値が高い状態が続くと、血管が障害され全身の合併症を引き起こします。

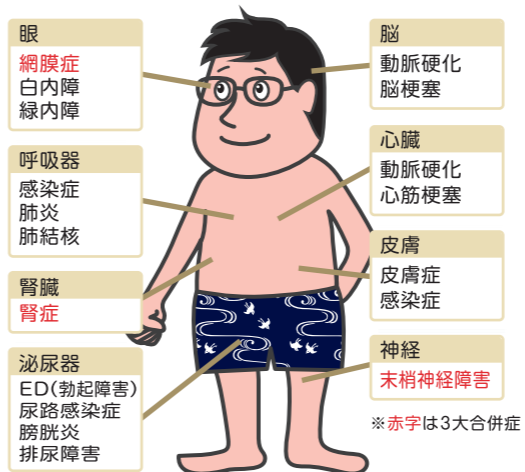
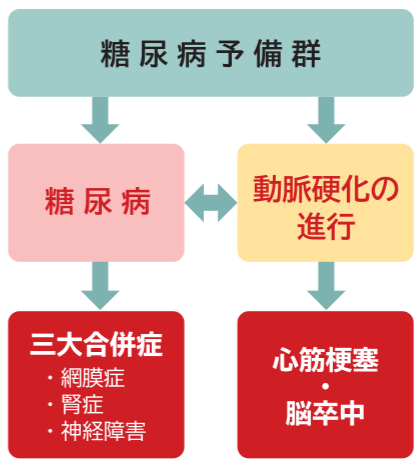
「糖尿病とは一生付き合ひましょう」

合併症を予防するためには、HbA1c 7.0%未満を目指しましょう。糖尿病は完治させることはできませんが、HbA1c 7.0%未満を目標に治療を継続しうまく付き合っていくことでコントロール可能な病気です。食事療法・運動療法を基本に薬物療法を組み合わせた血糖値を良好に保つことで健康な人と変わらない生活を送ることができます。糖尿病の症状がなくても、通院治療をやめずに続けてください。糖尿病を悪化させず、合併症を起さないためにも定期受診が必要です。定期的に受診し自身の血糖コントロール状態を知ることが大切です。

「糖尿病合併症外来を開設しました」

3大合併症は糖尿病になってから5〜10年で現れ始めます。血糖コントロールが悪いほど、早く出現すると言われています。

起こします。糖尿病は知らないうちに「全身をむしばむ病気」なのです。糖尿病は自覚症状が現れた時にはかなり病気が悪化しています。糖尿病の早期発見には定期的に健康診断をうけ、血糖値や尿糖をチェックすることが大切です。



一方、心筋梗塞や脳卒中の原因となる動脈硬化は糖尿病予備軍の頃から進むとされています。糖尿病にて加療中の方は動脈硬化検査、頭部MRI、冠動脈CTなどにて動脈硬化性病変の精査が必要です。当院の糖尿病合併症外来は動脈硬化性病変の早期発見に取り組みます。

また、糖尿病療養指導士によるフットケア外来も行っています。糖尿病の足病変のチェック、ケアの方法などの指導を継続して行います。

「糖尿病講座が定期的にあります」

定期的に糖尿病講座を開催し、自己管理を行うサポートを行っています。講座では、糖尿病の病気について説明し、実際に糖尿病食を試食したり、家で簡単にできる運動療法の実践など様々なテーマで糖尿病の理解を深める手助けを行っています。糖尿病で治療中の方、家族に糖尿病のいる方は、ぜひ参加して「糖尿病」という病気を知ってください。

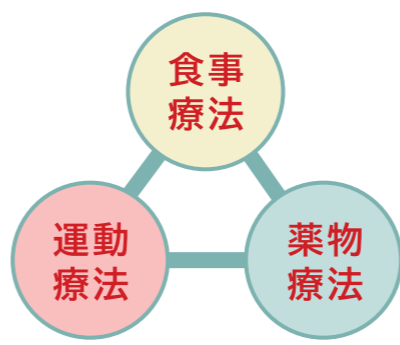
「糖尿病の症状」

- ① 異常にのどが渇く
- ② トイレが近く尿の量が多い
- ③ たくさん食べてもやせる
- ④ 空腹感が強く食欲旺盛
- ⑤ だるい、疲れやすい
- ⑥ 手足がしびれたり、足がつる
- ⑦ 目がかすむ

「糖尿病と診断されたら」

糖尿病の治療は、食事療法と運動療法が基本です。食事と運動療法の徹底で血糖コントロールを改善できる場合もあります。コントロールが困難な場合に薬物療法を開始します。

「糖尿病治療の3本柱」



食事療法と運動療法がまずは基本。状況に応じて薬物療法を開始します。

「糖尿病チーム医療を行っています」

当院は、糖尿病療養指導士の資格を取得した看護師、管理栄養士、薬剤師、理学療養士の専門スタッフでチーム医療に取り組んでいます。外来では個別に栄養指導を行い、個々に食事療法の重要性、改善点を提案しております。糖尿病の悪化が見られた患者さまには、教育入院をぜひ考えていただきたいと思えます。入院中に薬物治療の継続や調整を行いながら、食事療法の徹底、理学療法士による運動療法を行いながら生活習慣の見直しを行います。当院では、糖尿病チームで糖尿病とうまく付き合っていくために皆様のサポートを継続したいと考えています。

「糖尿病合併症外来」

- ① 初回診察・検査日：毎週火・金曜日 10:00～15:00
- ② 2回目以降の治療・診療日：上記より3週間後の火・水曜日 10:00～14:00
- お問い合わせ・ご予約 診療センター0896-29-5320

掲載調整中

脳卒中センター 脳神経外科について

脳卒中センターによる 体制の強化

この4月より脳卒中センターを開設し、一刻を争う脳卒中に対して、より迅速な診断・治療を提供できる体制を構築しています。救急隊からの救急搬送はもちろん、クリニックや病院の先生方からのご紹介、また、患者さまご自身での来院も含め、これまで以上に脳卒中急性期医療の充実を目指して参ります。

「あいさつ」



脳卒中センター
センター長
くもん よしあき
久門 良明

平成17年に脳梗塞に対する血栓溶解薬t-PAの静注療法が認可されて以来、脳卒中急性期医療は大きく変わりました。t-PAは、発

症後3時間以内という超急性期の投与が必要であり、米国では「Time is Brain」の標語のもと「FAST (Face・顔面の麻痺、Arm・腕の麻痺、Speech・呂律不良のいずれかが発生したら、Time..急いで救急車を呼ぶ)」という啓蒙歌まで作られました。

平成24年から発症後4.5時間以内までに投与開始時間は延長されましたが、早期の投与ほど高い治療効果が得られるため、病院到着から診察、CTおよびMRI撮影、インフォームド・コンセントまでを円滑に行える院内体制の確立が重要です。

当院でも、治療を受けた患者さまの多くが社会復帰できることをめざして、より迅速な診断と治療の行える体制を強化するために、脳卒中センターを開設致しました。本ページにおきましては、脳卒中に対する取り組みを知っていただくために、脳卒中センターの特徴や手術実績などをご紹介します。今後も地域の皆さまにより良質な医療を提供できるよう充実を図ってまいります。

「Time is Brain」



脳卒中センター
脳神経外科
医長
いしはら まなぶ
石原 学



脳卒中センター
脳神経外科
医長
しのはら なおき
篠原 直樹

脳梗塞、脳出血、くも膜下出血などの脳卒中は緊急治療が必要な病気です。一刻も早く正確な診断をして治療を開始するほど、よい結果が期待できます。

当院では、3テスラMRI、128スライス2管球CT、バイプレーン・フラットパネル血管撮影装置などの最新医療機器を導入し、迅速な診断、治療ができる体制を整えています。特に脳梗塞に対するt-PA療法(血管に詰まった血栓を溶かし、血流を再開させる薬の点滴治療)は、発症後4.5時間以内に治療を開始することができれば、回復を早め、後遺症を最小限に抑えられる可能性があります。

検査機器



3T MRI
(SIEMENS MAGNETOM Verio 3T)



バイプレーン
フラットパネル血管撮影装置
(SIEMENS Artis zee BA Twin)

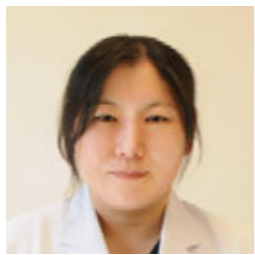


128スライス 2管球 CT
(SIEMENS SOMATOM Definition Flash)



手術用顕微鏡
(CARL ZEISS OPMI Pentero 900)
INFRARED800 術中蛍光血管ビデオ撮影

リハビリテーション



回復期
リハビリテーション病棟
医長
いのうえ あい
井上 愛

リハビリテーション医療では、患者さまが「帰ってから」を常に念頭に置いて取り組みます。

脳卒中センターの特徴

- 脳外科疾患 24時間救急体制
- 脳梗塞のrt-PA治療が可能
- 24時間 画像診断が可能 (CT、MRI、DSA)
- 2時間以内での緊急脳外科手術が可能
- 超急性期からの集中リハビリテーション
- 地域連携脳卒中クリニカルパス 計画管理病院
- 多職種連携 (糖尿病、心疾患、そのほかの再発危険因子の評価、治療、薬剤・栄養指導)

対象疾患

- 脳卒中 (くも膜下出血、脳出血、脳梗塞、一過性脳虚血発作、頸動脈狭窄症など)
- 頭部外傷
- 脊椎疾患 (変形性頸椎症、頸椎・腰椎椎間板ヘルニア、腰部脊柱管狭窄症など)
- 脳腫瘍
- 脳卒中後遺症などによる痙縮
- 水頭症など

在宅医療連携 拠点センター

患者さまが抱える障害はいくつもあり、それぞれが関わり合うものです。例えば歩行障害においては、片麻痺や半身の感覚障害あるいは半側空間無視や失行といった高次機能障害などが影響を及ぼしてきます。それらをひとつひとつ解きほぐし、様々な方法を模索し、再教育や再学習により能力を伸ばし、引き出す手助けをします。そして患者さまが為し得る最大の社会貢献(介助量の軽減を含む)ができる形での社会復帰を目指します。

(地域における医療と介護が連携した包括的かつ継続的な在宅医療の提供) 医療介護相談・地域啓蒙活動などを地域医療介護連携課が窓口となり迅速な調整・対応に努めます。

● 地域医療介護連携課

電話 (0896) 291-5704

FAX (0896) 291-5705

『HIRO病院 脳卒中センター』は、宇摩圏域の脳卒中診療をリードし、地域の方々へ信頼される施設となることを目指しています。』

【平成25年実績】

【当院での救急受入件数】(四国中央消防データ)

平成25年脳疾患患者搬送状況
(事故種別：急病) 合計 201人
うち当院搬送 129人 (75.0%)

平成25年脳外科対応傷病者搬送状況
(事故種別：急病以外) 合計 303人
うち当院搬送 173人 (70.6%)

手術件数 合計 85例 (H25年1月1日～H25年12月31日実績)

手術名称	件数	手術名称	件数
破裂脳動脈瘤ネッククリッピング	7	脊椎手術	7
脳腫瘍 (頭蓋内1例・頭蓋外1例)	2	・頸椎前方手術	(1)
CEA (頸動脈血栓内膜剥離術)	3	・頸椎後方手術	(4)
開頭血腫除去術	6	・腰椎後方手術	(1)
・脳内出血	(2)	・脊髄腫瘍摘出術	(1)
・急性硬膜外血腫	(2)	水頭症手術	12
・急性硬膜下血腫	(2)	・脳室腹腔短絡術	(7)
定位的血腫吸引術	4	・脳室ドレナージ術	(5)
		血管内手術	9
		・破裂脳動脈瘤コイル塞栓術	(3)
		・CAS (頸動脈ステント留置術)	(3)
		・PTA (経皮的血管拡張術)	(1)
		・腫瘍塞栓術	(1)
		・肺動脈ろう流入血管閉塞術	(1)
		慢性硬膜下血腫手術	23
		その他	12

TOPICS

「ふれあい看護体験」

平成26年5月17日、市内外より4校の高校生24名に参加していただき、ふれあい看護体験を開催しました。

これは、毎年看護週間に合わせて開催しているもので、看護の現場を見学し、実際に体験することにより、理解や関心を深め、将来の選択に役立つことを目的としています。

当院で働く看護師と同じ制服に袖を通した生徒からは、「人間が



生きていく上で、必要なことができる人々を助けることが、看護の仕事なんだと知ることができた。今回の体験で看護師になりたいと強く思った。」という感想をいただきました。

「第6回医療連携講演会」



平成26年5月20日、第6回医療連携講演会を開催しました。本講演会は、地域の医療機関の先生方をお招きし、当院医師との意見交換を行うと共に、地域の医療の質向上と連携強化を目指すものです。

今回は「がんの化学療法について」と題して、HITO病院 外科（がん薬物療法）部長の井上直也医師が最新の化学療法や当院の化学療法室の取組みなどを紹介させていただきました。

「脳卒中相談会開催」

平成26年5月30日、脳卒中相談会を開催しました。

HITO病院脳卒中センター長の久門良明医師、脳神経外科医長の篠原直樹医師、愛媛県内に3名しかいない脳卒中認定看護師のひとりである向井智子看護師をはじめ、保健師、リハビリなどの専門スタッフが脳卒中に関する相談を承りました。また健康コーナーでは、機械を使って血管年齢や肺年齢などの測定を実施し、健康の意識啓発を行いました。



「正面玄関ひさし完成」

病院オープン時より、多くの来院者さまからご意見をいただいていた正面玄関のひさしの設置工事がこのほど竣工しました。工事中は、ご来院の方にご不便とご迷惑をおかけしました。ご協力ありがとうございました。



「新入職員歓迎イベント」

平成26年5月31日、新宮「霧の高原」にて、総勢80名の職員が参加して新入職員歓迎イベントを開催しました。

毎年恒例となっている「料理の

達人」では、豪華賞品を目指し、各班が不慣れな野外で料理の腕を競いました。当日会場で発表された今年のメニューは「オムライス」で、各班から工夫の凝らした一品が出揃い、審査員の舌を唸らせて？いました。新入職員も良い気分転換となり、別の部署のメンバーとも団結力を深めることができました。



「第5回地域医療講演会」



平成26年6月9日、第5回HITO病院地域医療講演会を開催しました。

今回は「婦人科のすすめ―後悔しないための婦人科の基礎知識―」と題してHITO病院婦人科医長の小川晴幾医師による講演を行いました。

婦人科の基礎知識から女性医学、婦人科腫瘍やがん、検診について、図や写真を用いて説明させていただきました。

他人に話しづらい女性特有の病気ですが、我慢して生活の質を落とすのではなく、気になることがあれば、些細なことでもお気軽にご相談ください。

HITO 1st. アニバーサリーコンサート

平成26年6月21日、開院1周年を記念して「HITO 1st. アニバーサリーコンサート」を実施しました。音楽には力があります。その力で地域の皆様の身体と心が癒やされるようにと、ただイベントを行うだけではなく、地域に貢献できるように試みました。

これからもこういった取り組みを開催していきますので、病気以外でも当院と接していただき、当院をもっと身近に感じていただければと考えております。



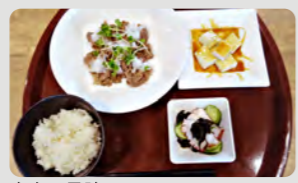
集団栄養教室のスケジュール

- 8/16 (土) 13:00～14:00
脳梗塞と血圧管理/ジュース
- 9/ 6 (土) 13:00～14:00
糖尿病のお菓子の種類と低血糖 & シックデイ/野菜ケーキ
- 10/4 (土) 13:00～14:00
嚥下しやすい食事と対処方法/トロミ剤を使ったデザート

場所：HITO病院3階大会議室 費用：240円
3日前までにお申し込みが必要です。
お申し込み先：栄養科 TEL (0896) 29-5210



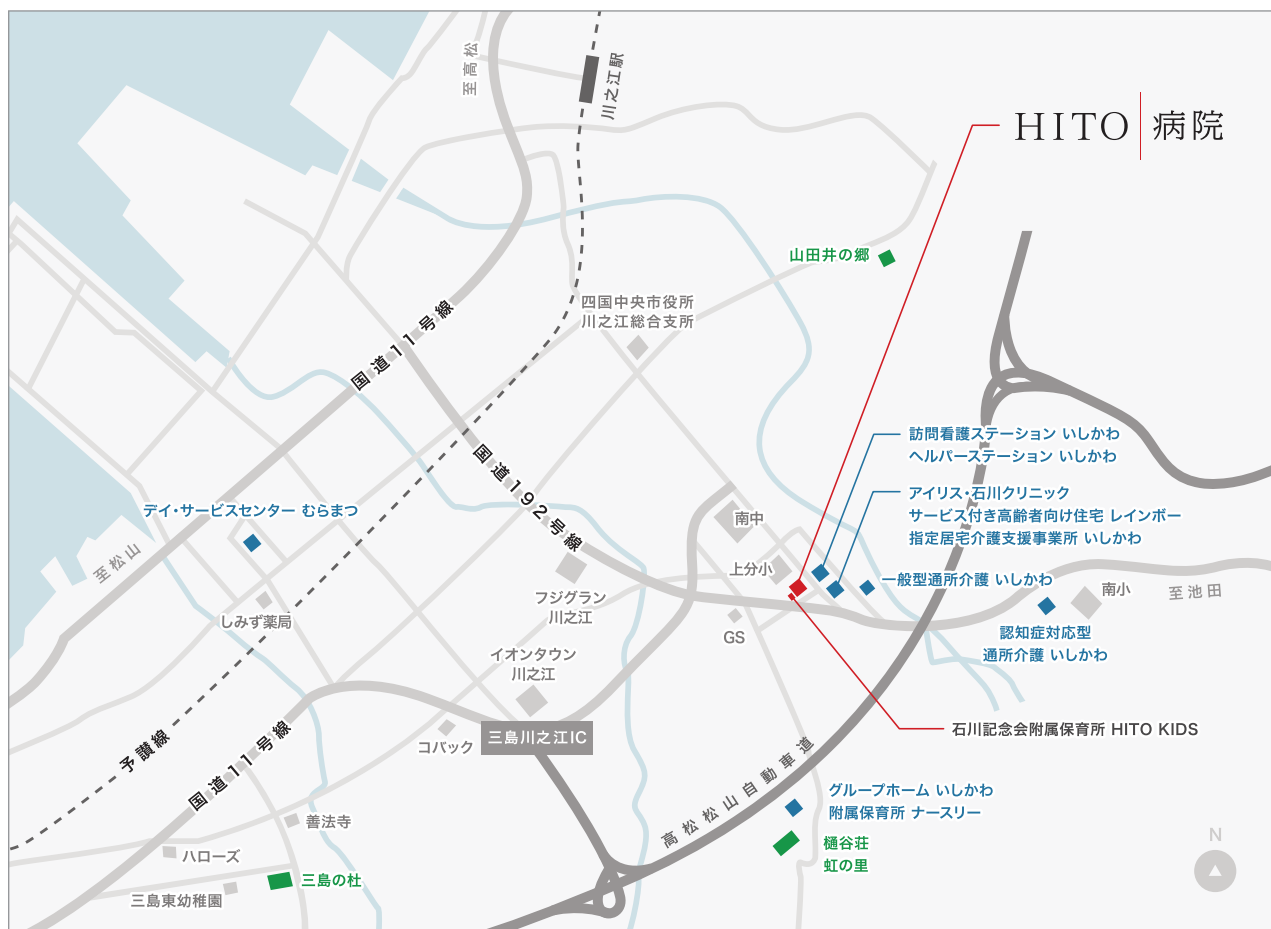
糖尿病教室で講演する扇喜 真紀先生



高血圧予防メニュー

平成26年5月17日に糖尿病教室、6月7日に集団栄養教室を開催しました。また、6月中旬には、当院の管理栄養士が献立作成した高血圧予防メニューを、レストランで提供しました。





HITO 病院
Official Site



Facebook



LINE@



美容外科Be
Facebook



HITO 病院

社会医療法人石川記念会 HITO 病院

〒799-0121 愛媛県四国中央市上分町 788 番地 1

TEL: 0896-58-2222 FAX: 0896-58-2223 URL: hito-medical.jp